

第2章

共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(34)～医療観察法病棟退院申請時のICF 評定による精神保健福祉法入院の予測

目的

本研究班において共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究が推し進められ、医療観察法指定入院医療機関での退院申請時点での共通評価項目の評定のうち【生活能力3)金銭管理】【生活能力4)家事や料理】といった基本的な生活能力に関わる項目が通院処遇移行後の精神保健福祉法入院の予測に関わることが明らかになった¹⁾。医療観察法入院処遇ガイドライン²⁾にはICF³⁾の一部を評定することも求められており、医療観察法病棟において入院時、入院継続申請時、退院申請時に評定が行われている。共通評価項目のうち基本的な生活能力に関わる小項目が精神保健福祉法入院の予測に関わるのであれば、ICFの下位項目の一部も精神保健福祉法入院の予測に関わることが期待でき、ひいては入院治療において特に訓練すべき機能が明らかになることが期待される。本研究では先の研究で明らかになった基本的な生活能力の予測力を更に詳細に検討するため、退院申請時点でのICF評定と通院処遇移行後の精神保健福祉法入院の発生との関連を検証する。

方法

本研究の対象は2008年4月1日～2012年3月31日の期間に医療観察法入院決定を受けた対象者であり、2013年10月1日までに退院し、通院処遇となった対象者である。研究協力が得られ、データが収集できた22の指定入院医療機関からの373名分のデータを用いた。

入院中のデータの抽出は診療支援システムの統計データ出力(CSV出力)プログラムを用い、退院後の追跡調査は指定通院医療機

関に調査票を送付して協力を求めた。本研究では上記のサンプルのうち、指定入院医療機関退院と同時に精神保健福祉法入院となった事例、追跡調査期間中に精神保健福祉法入院までの日数や処遇終了までの日数が欠損値である事例、退院申請時点のICFが欠損値もしくは「不明」と評価されたデータをサンプルサイズで除外した。

ICF下位項目は医療観察法病棟において退院申請時点の評価されているICF下位項目のうち、第1評価点のみを用いた。

b.解析方法

ICFの各項目が通院移行後の精神保健福祉法入院の予測をどの程度できるか評価するため、項目ごとにCox比例ハザードモデルによる解析を行った。本来Cox比例ハザードモデルは多変量解析で、予測モデルを作るために複数の独立変数を同時に解析するが、本研究では予測モデルを作るのではなく、ICF各項目の性質を評価することが目的である為、1項目ずつCox比例ハザードモデルによる解析を行った。

解析にはエクセル統計2012を使用した。

c.倫理的な配慮

各指定入院医療機関の研究協力者から入院対象者の情報を収集する際には、住所・氏名ならびに会社名・学校名・地名等個人の特定につながるような個人情報情報は削除し、データの受け渡しにはデータの暗号化を行った。退院後の追跡調査は対象者の入院していた指定入院医療機関から通院先の指定通院医療機関に行い、各指定通院医療機関においてデータを連結させた後に研究代表者に送付した。よ

ってデータ集約前の各指定入院医療機関の研究協力者の時点には連結可能となるが、研究代表者にデータが集約された時点では連結不可能匿名化となる。発表には統計的な値のみを発表し、一事例の詳細な情報を発表することはしない。以上の配慮をもって、研究代表者の所属施設である肥前精神医療センター倫理審査委員会の承認を得て本研究を実施した。

結果

ICF 下位項目のうち「活動と参加」領域の下位項目の基本統計量を表 1、「環境因子」の下位項目を表 2 に示した。ICF 下位項目のそれぞれの評価が欠損地であるデータ、「不明」と評価されたデータをサンプルワイズで除外したため、それぞれの解析に用いられた N が異なり、母数のうちで精神保健福祉法入院をした事例数も異なるため、それぞれの数を表 1、表 2 に記した。ICF は「活動と参加」領域は 0 点 = 「完全にできる」～4 点 = 「全くできない」の 5 件法、環境因子は 0 点 = 「促進的」～4 点 = 「阻害的」の 5 件法で評価されており、いずれの項目も最小値は 0、最大値は 4 である。

ICF 「活動と参加」領域の下位項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 3、「環境因子」の下位項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 4 に示した。

表 3 より、【日課の管理】【日課の達成】【基本的な経済的取引】の 3 項目が 1%水準で COX 比例ハザードモデルによる解析が有意となった。図 1～図 6 に【日課の管理】【日課の達成】【基本的な経済的取引】のそれぞれの項目の生存率曲線と log - log プロットを示した。図 1～図 6 より、上記 3 項目の比例ハザード性が示され、それぞれ表 3 のハザード比、【日課の管理】: 1.580 (95%信頼区間: 1.158～2.156) 【日課の達成】: 1.483 (95%信頼区間: 1.116

～1.970) 【基本的な経済的取引】: 1.581 (95%信頼区間: 1.156～2.164) でそれぞれの評価が高く、機能に問題がある方が通院移行後に早期に精神保健福祉法入院に至る危険性を高めることが明らかになった。

表 4 より、環境因子はいずれの項目も有意とならなかった。

考察

本研究の結果、【日課の管理】【日課の達成】【基本的な経済的取引】のそれぞれの機能に問題が大きい方が通院移行後に早期に精神保健福祉法入院に至る危険性が高まることが明らかになった。

ICF の下位項目【基本的な経済的取引】の機能に問題が大きいほど精神保健福祉法入院に至りやすいという結果は、共通評価項目の小項目【生活能力 3) 金銭管理】の評価が高いほど精神保健福祉法入院に至りやすいという結果¹⁾と共通するものと言える。金銭管理に関わる ICF の項目としては、他に【複雑な経済的取引】と【経済的自給】があるが、表 1 より【複雑な経済的取引】と【経済的自給】は【基本的な経済的取引】よりも平均値が高く、比較的できない対象者が多いことが分かる。このような比較的難度の高い経済的取引は問題があっても精神保健福祉法入院にはつながらず、基本的な金銭管理能力、日々の生活費の管理の等で問題が生じる場合には長期的に見て精神保健福祉法入院につながりやすいということが本研究の結果から明らかになった。共通評価項目の下位項目と ICF 下位項目との相関を調べた研究⁴⁾でも共通評価項目の小項目【生活能力 3) 金銭管理】と ICF 【基本的な経済的取引】との相関は $r=0.45$ と中程度の相関があるのに対し、【生活能力 3) 金銭管理】と【複雑な経済的取引】、【経済的自給】との相関はそれぞれ $r=0.21$ 、 $r=0.30$ と比較的弱い相関に留まっており、共通評価項目の【生

活能力 3) 金銭管理】で評価している金銭管理能力は ICF の【基本的な経済的取引】により近いものであると言える。

【日課の管理】【日課の達成】の機能に問題がある方が精神保健福祉法入院に至りやすいという結果からは、長期的に見た時には退院申請時に残存している精神症状等よりも日々の生活パターンを維持できるかという点が重要であることが示唆される。

更に次章以降で症状悪化による精神保健福祉法入院や、暴力、問題行動の予測について検証する。

文献

1) 壁屋康洋・高橋昇・西村大樹・砥上恭子・松原弘泰・小片圭子・山本哲裕・荒井宏文・深瀬亜矢・鈴木敬生・今村扶美・瀬底正有・竹本浩子・中尾文彦・野村照幸・大原薫・松下亮・中川桜・堀内美穂・古賀礼子・河西宏実・畔柳真理・常包知秀・横田聡子・長井史紀・前上里泰史・占部文香・高野真弘・有馬正道・天野昌太郎・大賀礼子・桑本雅量・藤

田美穂・笠井正一・富山孝・島田雅美・小川佳子・古野悟志・山内健一郎・菊池安希子：平成 25 度厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合 研究事業) 医療観察法対象者の円滑な社会復帰に関する研究【若手育成型】医療観察法指定医療機関ネットワークによる共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究 平成 25 年度総括研究報告書，2014．

2) 厚生労働省：医療観察法入院処遇ガイドライン，2005．

3) 世界保健機関 (WHO)：ICF 国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 - ．中央法規出版，東京，2002．

4) 壁屋康洋、高橋昇、西村大樹、砥上恭子、野村照幸、古村健、箕浦由香、前上里泰史、朝波千尋、宮田純平：共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(6)収束妥当性の検証．司法精神医学,8,20-29,2013．

表 1 ICF「活動と参加」項目の基本統計量

ICF「活動と参加」項目	N	うち精神保健福祉法入院あり	M	SD
身体快適性の確保	220	56	0.664	0.699
食事や体調の管理	220	56	1.018	0.782
健康の維持	220	56	1.055	0.763
調理	196	49	1.459	0.968
調理以外の家事	212	54	1.042	0.834
敬意と思いやり	220	56	0.986	0.785
感謝	220	56	0.836	0.765
寛容さ	220	56	1.186	0.837
批判	219	55	1.196	0.858
合図	220	56	1.027	0.849
身体的接触	216	55	0.935	0.933
対人関係の形成	220	56	1.436	0.917
対人関係の終結	205	51	1.298	0.931
対人関係における行動の制限	219	55	1.242	0.779
社会的ルールに従った対人関係	218	55	1.087	0.830
社会的距離の維持	219	55	1.187	0.844
日課の管理	219	55	0.813	0.794
日課の達成	220	56	0.845	0.807
自分の活動レベルの管理	220	56	1.023	0.919
責任への対処	217	54	1.327	0.871
ストレスへの対処	219	56	1.607	0.819
危機への対処	198	49	1.768	0.949
基本的な経済的取引	219	55	0.776	0.801
複雑な経済的取引	163	48	1.798	1.339
経済的自給	203	53	1.320	1.194

表 2 ICF「環境因子」項目の基本統計量

ICF環境因子項目	N	うち精神保健福祉法入院あり	M	SD
生產品と用具	220	56	1.018	0.984
自然環境・地域環境	220	56	0.841	0.935
支援と関係(量的な側面)	220	56	0.777	0.800
態度(感情や質的な側面)	220	56	1.086	0.915
サービス・制度	220	56	0.677	0.765

表3 ICF「活動と参加」各項目のCOX比例ハザードモデル解析結果¹

共変量 ICF「活動と参加」項目	係数	標準誤差	Wald検定			ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
			カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
身体快適性の確保	0.129	0.203	0.404	1	0.525	1.138	0.764	1.693
食事や体調の管理	-0.010	0.178	0.003	1	0.957	0.990	0.699	1.403
健康の維持	0.047	0.179	0.068	1	0.794	1.048	0.737	1.490
調理	0.035	0.150	0.056	1	0.813	1.036	0.772	1.390
調理以外の家事	0.231	0.167	1.912	1	0.167	1.260	0.908	1.750
敬意と思いやり	0.080	0.180	0.197	1	0.657	1.083	0.762	1.540
感謝	0.224	0.180	1.551	1	0.213	1.251	0.879	1.781
寛容さ	0.065	0.167	0.151	1	0.698	1.067	0.770	1.479
批判	-0.174	0.164	1.121	1	0.290	0.841	0.609	1.159
合図	-0.162	0.167	0.947	1	0.330	0.850	0.613	1.179
身体的接触	0.002	0.157	0.000	1	0.988	1.002	0.737	1.363
対人関係の形成	-0.174	0.155	1.262	1	0.261	0.840	0.620	1.139
対人関係の終結	0.214	0.155	1.899	1	0.168	1.239	0.914	1.680
対人関係における行動の制限	0.223	0.174	1.654	1	0.198	1.250	0.890	1.757
社会的ルールに従った対人関係	0.289	0.167	3.002	1	0.083	1.335	0.963	1.853
社会的距離の維持	0.201	0.164	1.501	1	0.221	1.223	0.886	1.687
日課の管理	0.457	0.159	8.318	1	0.004 **	1.580	1.158	2.156
日課の達成	0.394	0.145	7.392	1	0.007 **	1.483	1.116	1.970
自分の活動レベルの管理	0.156	0.141	1.223	1	0.269	1.168	0.887	1.539
責任への対処	0.174	0.150	1.335	1	0.248	1.190	0.886	1.597
ストレスへの対処	0.049	0.171	0.083	1	0.774	1.050	0.752	1.467
危機への対処	0.004	0.153	0.001	1	0.978	1.004	0.744	1.356
基本的な経済的取引	0.458	0.160	8.202	1	0.004 **	1.581	1.156	2.164
複雑な経済的取引	0.003	0.108	0.001	1	0.977	1.003	0.812	1.240
経済的自給	0.060	0.121	0.243	1	0.622	1.062	0.837	1.347

**p<.01

表4 ICF「環境因子」各項目のCOX比例ハザードモデル解析結果²

共変量 ICF環境因子項目	係数	標準誤差	Wald検定			ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
			カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
生産品と用具	0.112	0.131	0.739	1	0.390	1.119	0.866	1.445
自然環境・地域環境	0.109	0.143	0.588	1	0.443	1.116	0.843	1.476
支援と関係(量的な側面)	-0.027	0.169	0.025	1	0.873	0.973	0.699	1.355
態度(感情や質的な側面)	-0.029	0.151	0.038	1	0.845	0.971	0.723	1.304
サービス・制度	-0.172	0.185	0.859	1	0.354	0.842	0.586	1.211

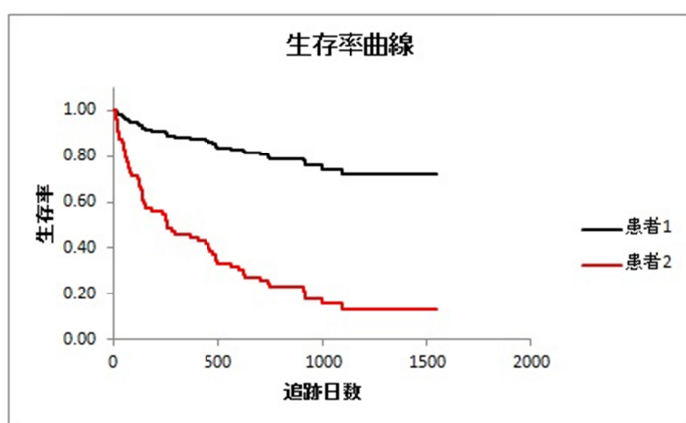


図1 【日課の管理】の生存率曲線

¹ 本表の値は、ICFの各下位項目を1項目ずつCOX比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

² 本表の値は、ICFの各下位項目を1項目ずつCOX比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

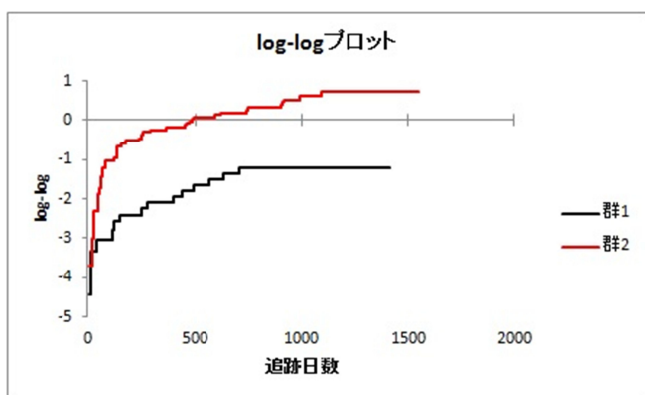


図2 【日課の管理】のlog - log プロット

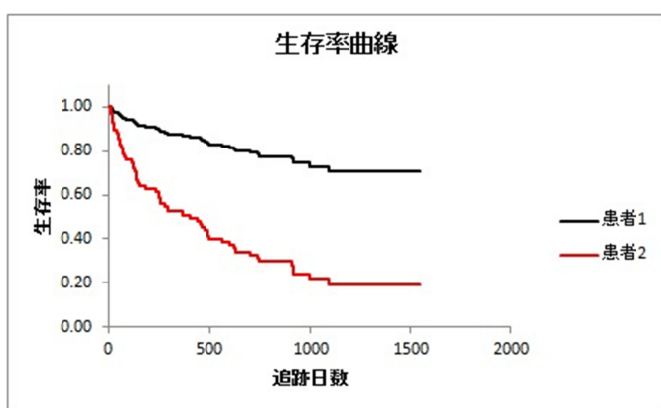


図3 【日課の達成】の生存率曲線

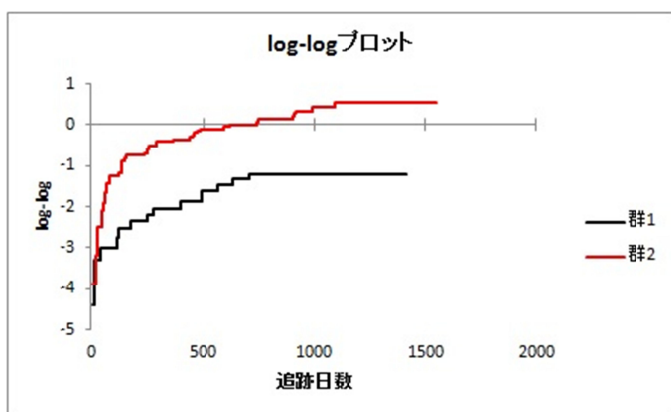


図4 【日課の達成】のlog - log プロット

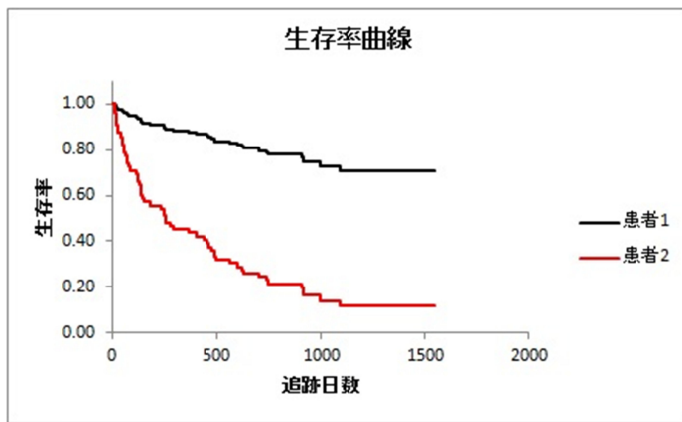


図5 【基本的な経済的取引】の生存率曲線

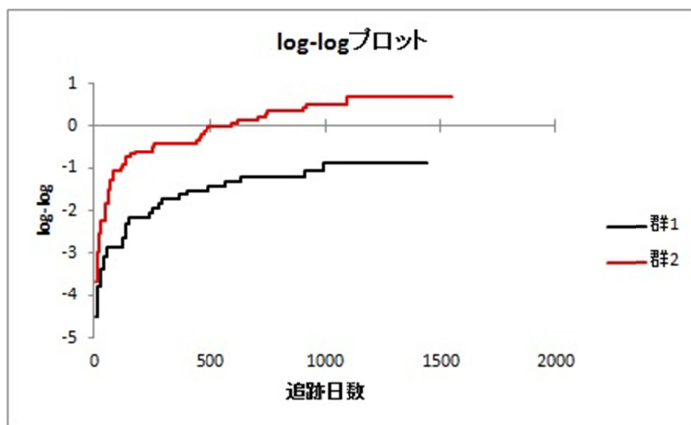


図6 【基本的な経済的取引】のlog - log プロット